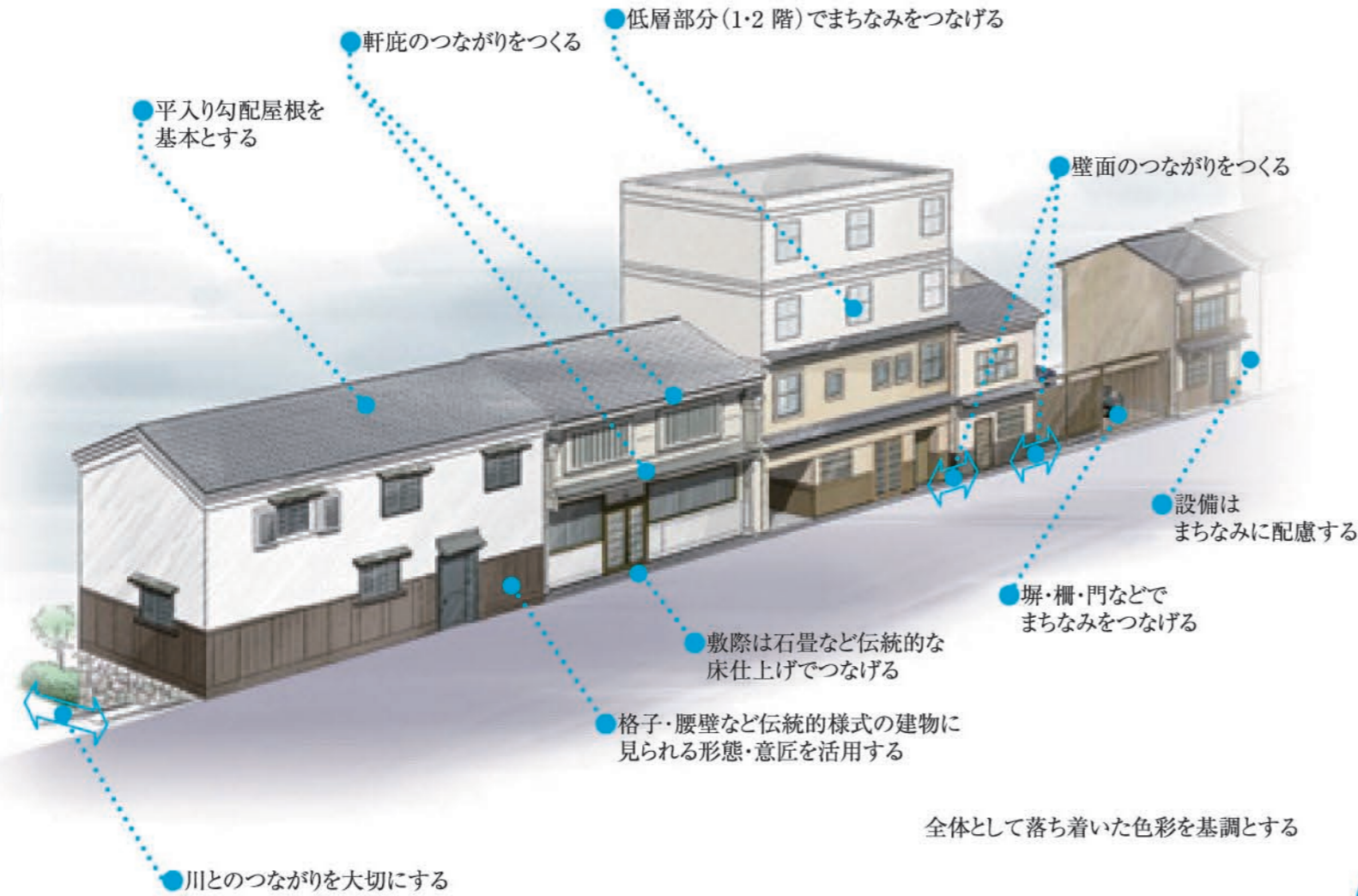


つなげる

「歴史的特徴」を活かしてもてなす



推奨エリア:菅原町周辺



1 天満らしい昔ながらの建物を受け継ぐ

昔からの建物は修復しながら保全・活用する

天満に昔から受け継がれている町家や蔵、お屋敷などの伝統的様式の建物は、大切に修復・改修しながら保存・活用します。



伝統的様式に
ならって新しく建てる

新しく建物を建てる時は、瓦屋根や袖うだつ、格子戸や箱軒など、伝統的様式をバランスよく取り入れます。



2 新しい建物等は昔ながらの建物とのつながりを大切にする

低層部分(1・2階)は隣と調和させる

ビルやマンション等まちなみへの影響が大きい建物を建てる時は、2階以下の低層部分について、周囲の伝統的様式の建物と軒のつながりをつくる、壁面線をそろえるなどの工夫をします。



駐車場も隣の建物となじませる

駐車場等の空地には、通りに面して塀・柵などを設置し、周囲の伝統的様式の建物と壁面線をそろえる、色彩やデザインを調和させるなどの工夫をします。



天満の伝統的建物の特徴

天満地区には、菅原町を中心に町家・長屋・蔵・塀庭付き戸建て(お屋敷)など、伝統的な建物が多く残っています。蔵を活かしたお店やギャラリーなどもあり、まちなみの魅力となっています。

◎天満ならではのの特徴

天満地区の伝統的建物は明治以降に建てられたものが多く、比較的新しい様式が多いのが特徴です。江戸時代に建てられた町家・長屋にはつし2階(2階の階高が低い)が多いですが、天満の伝統的建物は本2階2階の階高が高いので2階に窓があるものが多くなっています。また、隅切りされた角地に伝統的建物がみられるのも天満地区の特徴の一つです。この場合、屋根は入母屋(いりもや)造、角に面した部分に出入口を設ける様式が一般的です。

町家 職住近接の伝統的な住まい。通りに面してミセの間があり、奥に住まいがある。

長屋 戸建てに対して二戸以上連続しているもの。表通りに面した表長屋と、路地に面した裏長屋がある。

蔵 耐火構造をもった木造の倉庫。一般的な住宅では細長い敷地の奥に立地するが、卸問屋が多い天満地区では通りに面して立地するものが多いのが特徴。川に面した平入造の「浜蔵」も見られる。

